

日本一の星空、花桃、昼神温泉郷 阿智村 すべての人が安心して 旅行を楽しめる地域へ

ユニバーサルツーリズムを推進

「日本一の星空」として星空鑑賞ツアーによる観光振興が旨を集める長野県阿智村。観光のさらなる活性化、地域の持続的な発展に向けて、年齢や障害に関係なく誰もが安心して旅行を楽しめるユニバーサルツーリズムの確立を模索している。阿智村と阿智屋神観光局は11月7日「ユニバーサルツーリズム阿智村シンポジウム2019」を阿智村コミュニティセンターで開いた。有識者の講演、村内で観光、福祉に携わる関係者の意見交換を通じて推進の方向性を探った。

シンポジウムで方向性探る

阿智村長 熊谷 秀樹氏



阿智村の熊谷秀樹村長は、「ユニバーサルツーリズム阿智村シンポジウム2019」に登壇し、観光関係者だけでなく、村を挙げたユニバーサルツーリズムの推進に意欲を示した。

阿智村のユニバーサルツーリズムの取り組みは、昨年10月に開催したセミナーがキックオフ

誰もが元気の出る観光地に

宣言のような形ながらも、今回のシンポジウムに至った。阿智村は人口約6400人の小さな村だが、年間観光客数は約130万人。昼神温泉郷を中心に、日本一の星空、日本一の花桃など、年間を通して観光客におもしろい体験を提供している。ユニバーサルツーリズムを推進し、どんな方も旅行を楽しんでいただく。元気を出したい。観光事業者や受け入れの関係者だけでなく、村民全体がそういう気持ちになり、そして南信州、長野県、日本全体でおもしろいことができるように。

「昼神プレミアムサポート」開始 着地で観光、入浴支援

阿智屋神観光局と、介護・医療事業者を連携する「わくわく」

阿智屋神観光局が旅行者の希望を踏まえて、今年度より「昼神プレミアムサポート」を開始した。阿智屋神観光局が旅行者の希望を踏まえて、今年度より「昼神プレミアムサポート」を開始した。阿智屋神観光局が旅行者の希望を踏まえて、今年度より「昼神プレミアムサポート」を開始した。

阿智村ユニバーサルツーリズムの歩み

- 2013年 ▶リハビリ旅行、初の受け入れ(現在まで9回)
- 2018年 ▶長野県地域発元気づくり支援金を活用して事業を実施。主な事業は、ユニバーサルツーリズム情報セミナーの開催/昼神温泉郷の旅館などでパブリックセミナーの開催/ホームページ作成/けん引型車いす「JINRIKI」や車いすの貸し出しシステム構築/阿智高校地域政策コース観光エリアムの3年計画と連携し、リハビリ旅行の滞在プログラム開発/実施/遊歩道のバリアフリー計画/車いすユーザー視点による観光・防災の実証実験などを実施
- 2019年 ▶信州大学主催のユニバーサルフィールド・コンシェルジュ養成講座を阿智屋神観光局の職員が受講し資格を取得
- ▶介護者付き添い支援プラン「昼神プレミアムサポート」事業がスタート

近畿日本ツーリスト首都圏 ユニバーサルツーリズム推進担当

近畿日本ツーリスト首都圏団体旅行部、ユニバーサルツーリズム推進担当の伴流高志氏は、約20年にわたってユニバーサルツーリズムの推進に携わってきた経験を踏まえ、「受け入れ先進地の取り組み(今後の展望)」として講演した。

伴流 高志氏

「リハビリテーションの視点から見た温泉旅行の可能性」と題して、連携して研究を進めている奈良学園大学保健医療学部リハビリテーション学科教授の池田耕二氏、北大阪ほうせんか病院理学療法士の喜多一馬氏が講演した。

温泉旅行で生きがいがづくり、QOL向上に

池田氏は「リハビリテーションの視点から見た温泉旅行の可能性」と題して、連携して研究を進めている奈良学園大学保健医療学部リハビリテーション学科教授の池田耕二氏、北大阪ほうせんか病院理学療法士の喜多一馬氏が講演した。

「大切な時間」をサポート

▲中村氏

▲中山氏

▲山本氏

▲白澤氏

▲喜多氏

▲池田氏



シンポジウム翌日のモニターツアー。車いすでのトレッキングについて検証した

車いすでの雲海鑑賞、高原トレッキング

阿智屋神観光局は11月8日、ユニバーサルツーリズムのモニターツアーを村内で実施した。車いすユーザー2人と、観光や福祉に関わる村内のメンバー10人が参加した。富士見台高原ロープウェイで山頂性を検証し、商品化につなげる。

【コーディネーター】 JINRIKI 代表取締役 中村 正善氏

- 【パネリスト】 橋本 剛氏 (別府・大分バリアフリーツアーセンター)
- 中山 陽平氏 (阿智村はぐカフェ)
- 山本 昌江氏 (阿智屋神観光局)
- 白澤 裕次氏 (阿智屋神観光局)
- 牛山 玲子氏 (阿智屋神観光局)

パネリストスキャニ

「ユニバーサルツーリズムが社会(地域)を変える」がテーマ。コーディネーター、パネリストの6人に加え、基調講演の講師、伴流高志氏、池田耕二氏がアドバイザーとして登壇した。

中村 車いすをけん引する補助装置「JINRIKI」の開発を通じて、バリアをなくすのではなく、いかに「越える」かを考えてユニバーサルツーリズム(UT)を推進してきた。皆さのUTについての考えは、

高年齢者の旅行をサポートして7年前、留学中のオーストラリアでの事故で今は車いす生活だ。出身は愛知県だが、別府市に移住し、自立した生活を送りながら、88歳に入ってから別府市観光協会に入社した。九重山の頂上に登ったりしている。UTには、バリアを越える、挑戦することといった障害者自身の気持ちと、それを支える周囲の人たちのサポートが必要だ。

中山 高年齢者や障害者の旅行、外出の支援、介護サービスを手掛ける「ユニバーサルサポート」(長野県茅野市)を立ち上げ、介護福祉士、地域トラベルサーターの仕事をしている。3年前に脳梗塞を発症し、入院中にUTを知り、この仕事を始めた。皆さんに元気を提供するの

山本 温泉の入浴サポート。中村 阿智村の住民の立場からUTをどう考えるか。山本 村の保健師をしていて、自分や家族の立場から、このことを思い通りに語り合う「はぐカフェ」という会を毎月開いていて、障害のあるお父さんを持つ母親、親の介護をされている方が語り合う中、地域の課題も見えてきた。阿智村のバリアフリーマップ作りを始めたが、そこで阿智屋神観光局のUTの事業に出会った。JINRIKIも知り、村の夏祭りの時に車いすを引いてみて自由に動けることに驚き、プレミアムサポートを知ってトヘルサポート

白澤 温泉に入ることはエンターテインメント的な体験だ。普段シャワー浴なので、大きな湯船に浸かると体が温まる感じが、とてもいい。温泉には、人々の心をとらえる力があって、それが、現実でできるということだ。温泉には、人々の心をとらえる力があって、それが、現実でできるということだ。

池田 温泉に入ることはエンターテインメント的な体験だ。普段シャワー浴なので、大きな湯船に浸かると体が温まる感じが、とてもいい。温泉には、人々の心をとらえる力があって、それが、現実でできるということだ。

喜多 温泉に入ることはエンターテインメント的な体験だ。普段シャワー浴なので、大きな湯船に浸かると体が温まる感じが、とてもいい。温泉には、人々の心をとらえる力があって、それが、現実でできるということだ。

池田 温泉に入ることはエンターテインメント的な体験だ。普段シャワー浴なので、大きな湯船に浸かると体が温まる感じが、とてもいい。温泉には、人々の心をとらえる力があって、それが、現実でできるということだ。

喜多 温泉に入ることはエンターテインメント的な体験だ。普段シャワー浴なので、大きな湯船に浸かると体が温まる感じが、とてもいい。温泉には、人々の心をとらえる力があって、それが、現実でできるということだ。